

16 January CARE ヨルダンで現在、ヨルダン国内のシリア難民に対する支援活動を行っていますが、現地でも冬の厳しさが増すに連れ、避難者の生活状況が厳しくなっているようです。 CARE ヨルダンからの報告を紹介します。

.....

「シリアから逃れた家族を襲う生活苦と厳しい寒気」(ヨルダン発)

シリアでの長引く戦闘から逃れ、ヨルダンに向かった避難世帯の多くは首都アンマンを目指します。CARE が最近アンマンで行った実態調査では、回答してくれた人たちの 40%が極めて危うい状態にあり、緊急支援の必要が差し迫っていることがうかがえます。

多くの世帯はシリアを去る時に家財道具を売り払い、わずかな荷物だけ持って移動を開始しました。アンマンの家賃は借金地獄に陥りそうなくらい高く、皆、賃料滞納による強制立ち退きを恐れています。中には、危険な紛争地の自宅へ戻ることを考える家族さえいるほどです。

CARE のスタッフが話を聞いた一人の父親、ハイ・ナザルさんは、「住宅が一番の問題です。頭をカバーする屋根(住居)がなければシリアに帰るしかありません。子どもたちを路上生活させるわけにはいかない。」と言います。気温が摂氏 0 度まで急降下するというのに、調査した世帯の 82%は暖房器具を持っていません。避難民のアブドルさんは、「私たちは、暖房器具はもちろん厚手の衣服も持っていません。毛布も全然足りません。本当に不安です。室内もひどく寒くなってきたし、湿気もひどいんです。」と言います。

CARE ヨルダンのカントリー・ディレクター、ケヴィン・フィッツチャールスは、「ここにいる家族は生命の危険を感じてシリアの自宅を離れ、避難してきました。しかしここでも、生活苦と厳しい冬の寒さに直面しています。」と訴えています。

CARE ヨルダンでは現在、アンマンに住む 20 万人以上の避難民に対し、食料品・賃料・毛布・暖房器具などの購入資金を援助しています。

.....

(写真はアンマンで暮らすシリア人避難世帯)

